

令和4年度 峰小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に、心身ともに健康で、自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる心豊かでたくましく生きる児童の育成

(1)健康でたくましい子【元気】(2)よく考え進んで学ぶ子【やる気】(3)心豊かで、思いやりのある子【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「地域とともにある学校」

教育基本法、学校教育法及び同施行規則、学習指導要領、栃木県教育委員会の指導の指針、宇都宮市教育委員会第2次学校教育推進計画、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、令和3年度指導の重点等に合致した学校経営を目指す。また、本校の教育目標の達成のため、児童の実態や児童の発達段階、特性、地域社会や保護者の願いなどを十分把握するとともに、うつのみや学校マネジメントシステムを十分に生かすことにより、全教育活動を通して心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童にとって居がいのある活力あふれる楽しい学校・学級を目指し、児童が主役となる場を意図的に設定し、充実感や達成感を味わうことにより、自ら進んで行動できる児童を育成する。
- (2) 長所を引き出し、認め励ます教育を実践する中で、自己の成長を実感させ、自己肯定感を高める。規範意識の醸成、望ましい人間関係と社会性の育成に努めるために、学校教育全体をとおして人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。
- (3) 楽しく分かる授業の実践ときめ細かな指導の充実、意欲的に取り組む授業づくり、ICT等を効果的に活用するとともに、学びに向かう集団づくり、家庭と連携した家庭学習を推進して、学力の向上を図る。
- (4) 生涯にわたって健康で安全な生活を実現する力を育むために、不審者・災害訓練、交通安全教室などを通して身を守るための行動力の育成、健康や体力の増進、望ましい食習慣の確立に努める。
- (5) 地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに、地域学校園の教育ビジョンを念頭に小中一貫教育の利点を生かした教育活動を推進し、信頼される学校の実現を目指す。
- (6) 教育公務員としての自覚と責任を持ち、コンプライアンスを遵守するとともに、勤務時間を意識した働き方改革と校務を効率的に行えるような工夫改善、事業内容の検討・見直し等を推進する。
- (7) 教職員の専門性や特性が生かせる校務分掌とその体制づくりを推進するとともに、校内研修を活性化させ、教育専門職としての資質と能力の向上を目指す。
- (8) ユニット部会を活用して教職員の学校経営への積極的な参画を促すとともに、組織マネジメントの考えに基づき、全教職員協働による教育目標の達成に努める。

【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、確かな学力の定着を図り
心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 教育課程編成の方針

- (1) 地域協議会を窓口とした保護者や地域団体等の学校への積極的な参画の推進
- (2) 地域団体との連携と地域資源の積極的な活用の推進
- (3) 外部の学校評価等を活用し、地域住民が来校したくなる開かれた学校・地域とともにある学校の実現
- (4) 地域活動等への積極的な参加の奨励と相互理解の推進
- (5) 地域の教育力を最大限に活用した働き方改革の推進

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>(1) 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点活動「峰小 元気・やる気・思いやり活動」の推進 ・学校経営への参画意識の高揚と組織的で効率的な企画・運営の工夫改善 ・児童や地域の実態，地域の環境に即した教育計画の作成と実践 ・自分の夢や目標の実現に向けてたくましく生きる児童の育成を目指した教育活動の推進 <p>(2) 学習指導 【やる気】＝「自ら進んで表現できる児童の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○・基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の育成を目指して教材やICT等を効果的に活用した授業・改善，デジタル・シティズンシップの育成，問題解決的な学習の充実，日々の学習とまとめの学習の充実，家庭学習の習慣化，教科担任制の導入に向けた体制作り ・「できた」「分かった」が実感できる「分かる授業」の展開と個に応じた指導の充実 ・学習目標の明確化と学習のまとめや振り返りを意識した学習展開の工夫，AI型ドリル等の計画的な活用，学び合える活動等の工夫 ○・「学習の約束」を活用した学習の準備，返事，チャイムの合図の順守の徹底 ○・読書活動の推進・充実と読解力の育成 <p>(3) 児童生徒指導 【思いやり】＝「自ら考え，適切な判断と行動ができる児童の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「峰小よい子の一日」や「陽東地域学校園児童生徒の目標」を活用したルールやマナーを守る態度の育成，互いに認め合い励まし合おうとする態度，高め合える学級経営の充実 ・感謝の集いやいじめゼロ集会の実施，人権標語の作成による感謝する心や人を思いやる心，生命や人権を尊重する態度の育成 ○・「特別の教科 道徳」の指導の充実と道徳の実践力の育成 ・共に学び合う場や互いの良さを認め合う場の意図的な設定による望ましい人間関係の醸成 ・確かな児童理解に基づく自己肯定感を高める声掛けの継続と個を生かす教育の実践 ○・家庭や各種団体と連携したあいさつ運動の推進 <p>(4) 健康（体力・保健・食・安全）</p> <p>【元気】＝「生涯にわたり心身の健康保持増進を図ることができる児童の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気っ子チャレンジや各種検定への積極的な参加，自発的なあいさつと返事の励行 ・「元気っ子健康体力チェック」の活用等による進んで運動に親しむ態度の育成，自己の健康増進に向けた生活習慣の定着 ・感染症の予防についての正しい理解と適切な行動の指導 ・歯磨きボランティアの活用による歯磨き指導（きらきらクラブ）の充実 ○・視力低下を防ぐ「目の体操」「姿勢体操」の指導，健康を管理する能力の育成 ○・望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実 ○・教育活動全体を通じた安全教育の充実・徹底，危険回避能力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	<p>A1 児童は，進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は，授業中，話をしっかり聞いたり，発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「話し方のきまり」を掲示し，児童が発言したり話し合ったりする際の参考にさせる。</p> <p>②児童が多様な考えをもち，主体的に学習に取り組めるようにするため，授業の中に児童が考えたり話し合ったりする時間や自分の考えを発表する場を設ける。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は94.5%で数値指標を十分達成している。保護者の肯定的回答も95.3%と高評価であった。</p> <p>【次年度の方針】 教室前方に掲示してある，地域学校園統一「学習のきまり」を活用し，学習指導に生かすことで，児童がより主体的に学習に取り組めるようにする。</p>

目	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①全ての教育活動の中で、自他の特徴や良さについて考えたり伝え合ったりする時間や場を設定する。</p> <p>②「特別の教科 道徳」において、児童の発達段階や特性等を考慮し、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫する。</p> <p>③感謝の集いやいじめゼロ集会を実施し、感謝する心や人権を尊重する態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は95.5%で昨年度より向上すると共に、数値指標を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 全ての教育活動の中で自他の特徴や良さについて考えたり伝え合ったりする時間を設定する。また「特別の教科 道徳」の時間の授業改善に努め、児童の心に響く道徳授業を行う。感染症拡大防止のため削減や縮小された行事や集会をできる範囲で行い、継続して思いやりの心を育てていく。</p>
す 児 童 の 姿	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「<u>学習のきまり</u>」を掲示し、必要に応じて確認させるなどしながら、<u>学習訓練を徹底させる。</u></p> <p>②「<u>峰小よい子の一日</u>」に基づいた生活目標を設定し、学級活動や朝・帰りの会等で繰り返し継続的に指導していきることにより、基本的生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>③「<u>峰小よい子の一日</u>」を掲示し、めあてをもたせたり振り返りをさせたりして、自覚を深めさせる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は94.3%で昨年度より向上すると共に、数値指標を大きく上回っている。地域住民の肯定的回答は100%だった。</p> <p>【次年度の方針】 「学習のきまり」「峰小よい子の一日」に基づいた生活を継続して指導する。定期的に振り返りを行うことで、さらに学習習慣・基本的生活習慣を身に付けさせる。</p>
	<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①あいさつを「今年度のテーマ」をして常に児童に意識させる。</p> <p>②あいさつ運動月間を設定するとともに、<u>PTA や地域協議会、地域学校園等と連携したあいさつ運動を実施する。</u></p> <p>③教職員が率先してあいさつをする。</p> <p>④あいさつの効果や重要性について、道徳や学級活動の時間、全体朝会・一斉下校等を活用して指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は92.6%で、昨年度より若干下回ったが、数値指標は10%以上上回っている。保護者の肯定的回答は96.6%で、昨年度を上回り、地域住民の肯定的回答は100%であった。</p> <p>【次年度の方針】 コロナ禍の影響も考慮しつつ、心のこもった明るいあいさつができるよう、教師をはじめ大人が範を示す。次年度も感染症に気を付けながらあいさつ運動の機会を設定し、啓発に努める。</p>
	<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 授業において、既習事項をもとにした少し難しい課題を用意し、児童の挑戦意欲を喚起する。</p> <p>②黙々と努力することを必要とする課題に取り組ませる中で、自分の努力の結果と向き合わせ、次の意欲につなげる。</p> <p>③根気強く取り組む喜びやおもしろさ等を児童が自主的に見出せる課題を設定し、児童が最後までやり遂げられるように支援する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は92.8%と数値指標を十分達成している。保護者の肯定的回答は80.6%であった。</p> <p>【次年度の方針】 キャリア教育とも連携して、学習の積み重ねをファイルやシールなどで可視化したり、学校便りや学年便りで周知したりするなど、児童の頑張りが保護者に伝わるようにする。また、授業において、めあてを明確にし、学習の振り返りを行う。</p>

<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「うつのみや元気っ子チャレンジ」に参加し、楽しみながら運動する機会を多く持たせる。</p> <p>②健康に関する意識を高めるために、外部講師や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。</p> <p>③給食週間やお弁当コンクールなどの食育行事に進んで参加するよう支援し、<u>各自の望ましい食習慣の醸成を図る。</u></p> <p>④各種災害を想定した避難訓練、交通安全教室、不審者対応避難訓練を実施し、児童が危険を予測し、自らの命を守り抜くための行動力を育成する。</p>	<p>【達成状況】 保護者、教職員、児童、地域住民の肯定的回答が90%を超えている。コロナの影響で元気っ子チャレンジは中止になったが、感染防止対策を徹底しながら教科体育や休み時間にスポーツ集会を行うなど、楽しみながら運動をした。また、栄養士や養護教諭、外部講師を活用した授業を行い、健康に関する子どもたちの意欲を高めた。</p> <p>【次年度の方針】 今年度を実施した様々な出前講座を継続するとともに、保健学習や家庭科の時間の中で体力・保健・食育・安全の4つの分野を関連させた授業や保健指導、給食指導を行う。</p>
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学級や家庭のために活動することを通して、集団のきまりを守ることや自分の役割を果たすことの大切さに気付かせる。</p> <p>②働くことの意義を理解するために、社会科や総合的な学習の時間などにおいて、地域社会で働く人から話を聞いたり働く人と交流したりする活動を行う。</p> <p>③宮・未来キャリア教育に位置付けられている活動の振り返りを実施し、自らの成長や変容などの自己理解を促す。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は92.8%で、昨年度より若干下回ったが、数値指標は10%以上上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 キャリアパスポート等を活用しながらキャリア教育を推進し、進んで働くことの意義を理解したり、行動したりできる児童の育成を目指す。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童が英語を使って自分の気持ちや考えなどを適切に伝えることができるようにするために、教員が自ら積極的に英語を使う。</p> <p>②児童が生きた英語に触れる機会の充実を図るために、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は91.9%で、数値指標を大きく上回っている。また、教職員の肯定的回答は88.9%であった。</p> <p>【次年度の方針】 教員が授業をコーディネートし、積極的に英語を使うようにする。また、引き続き、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を行う。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①生活科・社会科の授業などにおいて、体系的な学習を行い、児童が郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りが持てるようにする。</p> <p>②国語科の授業などにおいて、百人一首に親しむ学習に取り組み、郷土宇都宮に対する誇りや愛情を育む。</p> <p>③各種たより等で保護者への啓発を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は89.0%で、数値指標を上回っているが、保護者の肯定的回答は70.7%にとどまっている。</p> <p>【次年度の方針】 各学年の実態や教科に応じて、郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて触れる機会をもち、郷土宇都宮に対する誇りや愛情を育むようにする。出前授業での内容などを各種便り等を活用して保護者に発信する。</p>

	<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①タブレット型パソコンをはじめとするICT機器を活用して、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力を育成する。</p> <p>②教科学習で学んだことを確かめたり、自分の考えをまとめたりするなど主体的な学習活動を効果的に行うために、学校図書館を活用する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は93.5%で数値指標を達成している。保護者の肯定的回答も88.9%と昨年度を上回った。教職員の肯定的回答は100%だった。</p> <p>【次年度の方針】 ICT機器の活用が充実するよう、ICT支援員を活用したり、教職員が有効な活用についてさらに研修を重ね、情報を共有したりして、学習活動において効果的に使用できるようにする。</p>
	<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①高齢者への感謝や敬う心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて、高齢者を講師として招いたりインタビューしたりする学習活動を実施する。</p> <p>②高齢者を身近な存在として感じることができるよう、活動の様子を児童に伝えたり、参観の機会を設けたりする。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答割合は95.5%で、数値指標を上回っている。今年度もコロナ禍で学校での高齢者との交流はほとんどできなかったが、児童は日頃から感謝やいたわりの心をもって生活していることが分かる。</p> <p>【次年度の方針】 今後のコロナ禍の状況に応じて、生活科、総合的な学習の時間の授業や感謝の集いなどで高齢者と触れ合う機会を設け、身近な存在であることを意識させていく。</p>
	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について関心をもっている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①環境や国際理解、防災や食などをテーマにESD（持続可能な開発のための教育）やSDGsに取り組む。</p> <p>②各教科において、これまで行ってきた学校行事や体験活動などを「持続可能な社会」の視点から関連付け、教科の枠を超えた横断的、総合的な教育活動を実践する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は92.6%で、数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 「持続可能な社会」の実現に向けて、「SDGs」や「ESD」について教職員間で共通理解を図ったうえで、より分かりやすい事例を挙げ、教科等との関連を図りながら指導する。</p>
	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①特別な支援が必要な児童について、個別の支援計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。</p> <p>②学級担任とかがやきルーム指導員が指導目標や指導の手立てについて、直接話し合ったり、指導記録を確認したりする時間を設け、かがやきルームにおける指導の充実を図る。</p> <p>③保護者や関係職員（交流学級等）と丁寧な連絡を取り合い、交流及び共同学習を積極的に推進する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 全職員が児童の実態を把握し、児童・保護者に寄り添っていくことを共有する。様々なケースに迅速・柔軟に対応し、チームで解決に向けて尽力する。</p>
目指す学校の	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答90%以上（いじめ解消率100%）</p>	<p>①いじめゼロ強調月間はもとより、あらゆる機会を通して、いじめが許されない行為であることを指導する。</p> <p>②アンケートや教育相談の結果を踏まえて、道徳や学級活動の時間に望ましい人間関係を醸成するための心情や判断力を育てる。</p> <p>③HPや学校だより・児童指導だより・学年だよりを利用していじめ対策や学校の現状を公表し、家庭・地域との連携を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童で98.6%、教職員で100%、保護者で92.1%、地域住民で93.8%と、数値指標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 「いじめゼロ強調月間」「教育相談」「いじめアンケート」等を確実に実施し、その質を高めていく。全ての教育活動において、いじめは絶対に許されないものだという心情を教職員一丸となって育む。ホームページや学校だより、学年だより等を通じて周知に努める。コロナ関連いじめに十分留意し、予防に努める。</p>

<p>姿</p>	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童の自己肯定感を高めるために、児童が主体的に活動する場や活躍できる場を意図的に設定する。</p> <p>②児童と教師の信頼関係を構築するために、常日頃から児童同士の交友関係の把握に努めるとともに、受容的な態度で寄り添い、児童の話に積極的に耳を傾ける。</p> <p>③欠席状況共有シートなどで欠席状況を把握するとともに、校内教育支援委員会を活用し、学校全体で組織的・計画的に支援を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は97.1%で、昨年度より若干下回ったが、数値指標は10%以上上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 不登校を生まないための具体策を着実に行う。不登校予防のための良い実践を共有し合ったり、一人一台端末等を活用したりする。また、担任が一人で抱え込まないように、常日ごろから情報交換を絶やさず、チームで解決できる体制を構築する。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①外国人児童が充実した学校生活を送ることができるように、外国人児童や保護者の情報を収集し、校内での指導体制について共通理解を図る。</p> <p>②外国人児童の母語で日本語を指導する母語指導者と日本語で日本語を指導する日本語ボランティアと連携し、外国人児童の日本語指導を行う。</p> <p>③外国人児童が在籍する学級においては、学級内の人間関係についてきめ細やかな配慮を行い、個性を認め合う受容的な学級づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は100%で数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 外国人児童の母語で日本語を指導する母語指導者や、日本語で日本語を指導する日本語ボランティアと連携を図り、外国人児童の日本語指導を児童の実態に応じて行う。また、保護者との連携をさらに深める。</p>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①学校行事や児童活動等で、児童が自主的・主体的に取り組む場を意図的に設定する。特に、<u>あいさつ運動では、児童の発想や主体性を生かし、学校全体であいさつの気運を高めていく。</u></p> <p>②Q-Uテストや学校生活アンケートを活用して、一人一人の児童にとって居がいのある学級づくり、分かる授業の展開に努める。</p> <p>③学級活動やロング昼休みを利用して、学級全員で遊んだり教師と児童が共に遊んだりする機会をもつ。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、94.7%で、昨年度より若干下回ったが、数値指標は10%以上上回っている。保護者の肯定的回答は、95.4%で数値目標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 毎日の授業、学校行事や児童会活動、あいさつ運動等において、児童が自主的・自発的に取り組める場を意図的に設定し、活気のある明るい雰囲気を醸成していく。</p>
	<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①<u>授業のめあてを明確にするとともに、板書や発問、授業形態等を工夫した授業を行う。また、終末には授業で分かったことを振り返る時間をもつ。</u></p> <p>②児童一人一人の実態をとらえ、教材研究をするとともに、学校課題の研究や一人一授業等で積極的に授業を公開し、互いの指導法を向上させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は97.1%と数値指標を大きく上回った。保護者の肯定的回答も89.4%と高評価だった。</p> <p>【次年度の方針】 今後も学習のめあてを明確に示し、振り返りの時間を確保する。学校課題研究や一人一授業への取組み引き続き実施し、指導法の向上を目指す。授業の様子について、学年便り等を活用し、情報を発信していく。</p>

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に係る職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校職員（学校図書館司書、学校栄養職員、ALT、かがやきルーム指導員、ICT支援員、スクールカウンセラーなどを含める）が協力して学校業務に取り組める体制を整えるため、専門性や特性を生かした校務分掌を組織する。</p> <p>②チームとして学校の力を最大限に生かすために、事前に連絡や話し合いの場を設定する。さらに学校業務に取り組む中で進展状況及び達成度を確認し、改善策等を共有していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は100%で、数値指標を上回っている。学校職員（学校図書館司書、学校栄養職員、ALT、かがやきルーム指導員、ICT支援員、スクールカウンセラーなどを含める）がそれぞれの専門性や特性を生かし、協力して学校業務に取り組めるような体制を整えることができた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、学校スタッフと学校業務の進展状況及び達成度を定期的に確認するとともに、働き方改革を意識しながら改善策等を考え、学校全体で共有していく。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校は、長時間労働を改善するために、業務の精選、校務分掌の見直し、外部人材の活用など業務負担の軽減に取り組んでいる。</p> <p>②教職員は、効率的に業務を進め、長時間労働にならないように努める。</p> <p>③勤務時間を意識した働き方を推進するため、教職員が取りやすい形でリフレッシュデーを実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は96.3%で、数値指標を上回っている。ミライム（掲示板、情報メール）の活用による職員打合せ時間の短縮、業務の精選等が、業務の軽減につながった。</p> <p>【次年度の方針】 勤務時間を意識した働き方を推進する。業務の精選、校務分掌の見直し・均等化をさらに推し進める。</p>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①交流授業や中学校訪問等を通して中学校進学に対する児童の不安軽減を図る。</p> <p>②学校園で統一して、お弁当の日・統一献立・学校保健委員会等を行うことで学校園間の連携を強化する。</p> <p>③「陽東地域学校園ナビ」を活用して児童・保護者の陽東地域への所属感を高める。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は83.8%で、数値指標を上回っている。今年度は感染症対策をしながら、交流の仕方を工夫して行うことができた。児童の肯定的回答も19.3ポイント上がった。</p> <p>【次年度の方針】 今後もコロナ禍の状況に応じて、家庭学習や学習のきまり、交流授業、児童指導など、学校園間の連携を強化していく。ホームページや学年・学校だよりなどを活用し、情報伝達の方法を工夫することで、保護者や地域に小中一貫の取組がうまく伝わるようにする。また、「陽東地域学校園ナビ」の活用を通して、児童・保護者の陽東地域への所属感を高めていく。</p>
<p>A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「魅力ある学校づくり地域協議会」を窓口にも、保護者や地域住民及び峰地域団体の学校教育支援活動を推進する。</p> <p>②地域の人材・教育資源を有効に活用した学習活動を展開し、地域の良さに気付く、地域に貢献しようとする態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は94.7%で、数値指標を上回っている。学校は、地域協議会と連携し、峰地域の人材や資源も有効に活用して学習活動を展開してきた。</p> <p>【次年度の方針】 今後もコロナ禍の状況に応じて、地域協議会を窓口にも、地域の人材等を有効に生かしていく。また、教育効果が高まる学習活動において、積極的に地域人材・資源を活用していく。</p>

<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①企業、地域の各種団体、「街の先生」、宇都宮大学、ボランティアなどとの連携・協力による活動をさらに充実する。</p> <p>②「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を密にし、学校運営の充実を図る。特に、地域コーディネーターと連絡・調整を図りながら、学校支援ボランティアの活用を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は94.7%で、数値指標を上回っている。企業や「街の先生」、宇都宮大学の学生などと連携・協力したり、オンラインを活用したりして、学習活動を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 今後もコロナ禍の状況に応じて、実施できることは行い、地域の各種団体や学校支援ボランティア、宇都宮大学等と連携し、地域とともに歩む学校づくりを推進していく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①教室内外の掲示物を整えるとともに、定期的な整理・整頓をさせるなどして、学習にふさわしい環境を維持する。</p> <p>②場所に応じた清掃の仕方の指導の工夫や班長への指導の充実を図り、縦割り班清掃を通して望ましい環境整備に努める。</p> <p>③長期休業等を利用して、特別教室や資料室の整備を行う。</p> <p>④安全な学習環境を確保するため、日常的な点検や消毒、換気等を行い、施設・設備の維持管理や修繕を図る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答割合は90.6%、地域住民の肯定的回答割合100%で、数値指標を上回っている。定期的な机やロッカー等の整理・整頓や日常的な施設・設備の点検を行い、安全な学習環境を確保してきたが、今年度も、職員による毎日の消毒や消毒液の設置及び教室の換気、教職員やPTAのトイレ清掃など、新型コロナウイルス感染症対策を地道に行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 新型コロナウイルス感染症に対して継続的な感染症対策を行い、安全な環境づくりを行う。また、毎日の整理整頓や教室等の整備などを通して、学習にふさわしい環境を維持する。施設設備の維持管理では、定期的に巡視や点検を行い、計画的に修繕していく。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童の情報活用能力を育成するために、タブレット型パソコンをはじめとするICT機器や学習に必要な備品を整備する。</p> <p>②学校図書館を活用した学習を効果的に行うために、学習に必要な図書を充実させるとともに、学校図書館司書と連携を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は93.5%で数値指標を達成している。保護者の肯定的回答も88.9%と昨年度を上回った。教職員の肯定的回答は100%だった。</p> <p>【次年度の方針】 学習に必要な備品を適宜整備する。また、児童がタブレットを使用する上での手引きを見直し、ICT機器の使用の環境を整える。さらに、学校図書館司書と連携し学習に必要な図書を充実させる。</p>
<p>B1 児童は、峰小の合言葉「元気・やる気・思いやり」を意識して生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、『元気・やる気・思いやり』の合言葉を意識して生活するよう指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①峰小の合言葉を行事や活動のねらいに位置付け、意識化を図る。</p> <p>②行事や集会等で、合言葉に沿って児童が活動する様子を示すことにより、よりよい校風づくりを推進する。</p> <p>③学校だより・学年だよりに児童の活動の様子を掲載し、保護者への合言葉の周知を図る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は92.6%で、数値指標を上回っている。学校・学年だより等への関連記事掲載、朝会での講話、校内掲示物等により、「元気・やる気・思いやり」の合言葉の意識化を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、合言葉に沿って学級目標を設定し、目標実現に向けて努力する様子を示したり、合言葉が目に残るよう保護者に周知の仕方を工夫したりしていく。</p>

<p>B2 児童は、各種検定カード等をもとに、めあてをもって運動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「自分は、検定カードなどをもとにめあてを決め、達成に向けて努力している」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①新体カテストの結果から、課題を明確にし、スポーツ集会や教科体育の時間に計画的に補強していく。</p> <p>②各種検定カード・ミニマムを活用して各人に応じためあてをもたせ、教科体育や休み時間に取り組を支援する。なわとび検定では、児童同士で技を伝達する機会を設け、さらに意欲・技術の向上を図る。</p> <p>③取組の様子を、「元気活動」として学校だよりや学年だよりで家庭・地域に知らせ、意欲の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員100%、保護者73.6%、児童89%の肯定的回答となった。なわとび検定においては、委員会活動による下級生への支援を行った。また、鉄棒や跳び箱の学習においてもカードを活用し、意欲・技術の向上に努めた。保護者の肯定回答が80%を下回っているため、学年便りなどによる情報の発信が必要であった。</p> <p>【次年度の方針】 学年便りなどで、各種検定カードを活用している様子を家庭・地域に知らせ、意欲の向上を図る。 引き続き児童にめあてを持たせ、取組を奨励していく。</p>
<p>B3 児童は、読書の習慣がついている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「自分は、楽しく読書をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①週2回の読書タイムを確実に実施する。</p> <p>②読書ノート「みね読書人」の一層の活用を図る。</p> <p>③図書館だよりや「読書いっぱい活動」により、家庭と連携して「家読」を奨励する。</p> <p>④巡回図書を積極的に活用する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は88.0%で数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答は61.5%にとどまっている。</p> <p>【次年度の方針】 朝の「読書タイム」を継続するとともに、家庭でも読書の時間を確保できるよう、夏休みや冬休みなどの「家読」を奨励する。また、読書ノートへの記入をその都度児童へ呼びかけ、記録を累積させる。</p>
<p>B4 学校は、異学年・異校種間の交流や保護者・地域の方との交流により学校生活に潤いをもたせ、「来たる学校づくり」を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「自分は、異学年の友達や地域の方々と一緒に、充実した活動をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童会活動やクラブ活動、学校行事等において、縦割り班での活動を積極的に取り入れる。</p> <p>②幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流を積極的に行い、授業や活動の内容の充実を図りながら、児童の豊かな心情を培う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は94.7%で数値指標を上回っている。感染症対策をしながら、委員会活動やクラブ活動、縦割り班清掃や「なかよしタイム」での異学年交流により、望ましい関係が築かれ、児童が楽しく学校生活を送る姿が見られた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、状況に応じて縦割り班での活動を取り入れ、幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流の機会を確保し、充実した活動を計画・推進していく。</p>
<p>B5 児童は、自分の歯に関心を持ち、食後丁寧に歯磨きをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「自分は、食後ていねいに歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①歯と口の健康に関する意識を高めるために、学校医や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。</p> <p>②保健だよりを毎月1回発行するとともに、むし歯のない児童や歯磨き名人を表彰して歯磨きへの意欲を高める。</p> <p>③保健委員会やボランティアを活用して、歯磨きの個別指導を実施する。</p> <p>④クラス全員での歯磨きをさらに徹底していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員100%、保護者88.1%、児童92.6%の肯定回答となった。養護教諭による歯磨き指導を行ったり、長期休業中に歯垢の染出しを行ったりすることで、歯の健康に対する関心を高めた。また、歯の健康教室も、感染防止対策を講じながら行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 コロナの感染状況を注視し、学校歯科医の指導を仰ぎながら、今年度の取組を継続できるかどうかを検討していく。</p>

<p>B6 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、家庭学習（宿題）をしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習時間の目安や自主学習の例などを示して、児童が主体的に家庭学習に取り組めるようにする。</p> <p>②家庭学習に対して適切な評価をするなど、児童の意欲を高める工夫をする。</p> <p>③学校だより・学年だより・HP等で家庭学習の意義や期待される効果を取り上げ、保護者の協力を得る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は92.4%と数値指標を十分に達成している。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き「家庭学習の手引き」を活用するとともに、各学年で自主学習ノートや家庭学習記録カードを利用して、休日を含めた家庭学習の習慣化を図る。「家庭学習がんばり週間」での取組や日々の取組での頑張りを校内・学級内で称賛し、児童の意欲が高まるようにする。</p>
---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「目指す児童の姿」について

本校の重点活動【峰小 元気 やる気 思いやり活動】の視点から評価する。

「健康（保健・食・安全）・体力」【元気】においては、A6「健康や安全に気を付けて生活」が、教職員・地域・児童・保護者全てで90%以上の高い肯定的割合が得られた。これは体育の授業を工夫して行ったり、体育的行事をコロナ感染対策を講じながら工夫して行ったりした結果であると考えられる。さらに栄養教諭、養護教諭と連携した指導を行ったりしながら、食育便りや保健便りを通して保護者へ健康に関する取組を発信していた結果であると考えられる。また、本校独自の質問項目B2「各種検定カード等をもとにめあてをもった運動」は、教職員・児童の肯定的割合が85%以上であったが、保護者の肯定的割合が73.6%となった。教職員や児童の結果から、B2の項目への積極的な取組がされていることは分かるが、保護者への周知に課題があると考えられる。そのため、学年便りなど各種便り等を通して保護者へ発信していくよう努めていきたい。B5「歯磨き」では、教職員・児童・保護者の肯定的割合が85%以上であった。これらの結果から、評価項目の数値指標は達成していることが分かる。以上の結果から、今後も引き続き、体育の授業を中心に運動への関心が高まる活動を実践していく。さらに、保健の授業及び学級活動の時間を通して、児童が自分の体の成長や健康について正しく理解したり、安全への意識をもって生活したりすることができるように指導をしていく。食についても、毎日の給食指導や給食だより等による情報発信、食育コーナーの環境整備を継続していく。さらに、地域学校園共通の給食週間やマナー週間及び統一献立の実施、お弁当の日を通して食習慣の形成を図っていく。

「学習指導」【やる気】においては、A1「進んで学習」の肯定的割合は、教職員・保護者・児童ともに90%以上であった。A5「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む」は、教職員・児童は90%以上、保護者は80.6%であった。A8「英語を使ってコミュニケーション」は、教職員は88.9%・児童は90%以上であった。A9「宇都宮の良さを知っている」は、教職員・児童は89%以上であったが、保護者は70.7%と18ポイント以上の差がついた。A10、A25「ICT機器や図書等を学習に活用」は、教職員・児童は93%以上、保護者は88.9%であった。A18「きめ細やかな指導」の肯定的割合は、教職員・児童は97%以上、保護者は89.4%であった。これらの結果を総合的にみると、児童の肯定的割合はいずれも高く、児童は日々学校において進んで学習に取り組んでいる実態を捉えることができる。教職員・児童と保護者の肯定的回答の差が出たA5、A9については、学年便りなどの各種便り等を通して理解が得られるように努めていきたい。本校独自の質問項目B3「読書の習慣」は、教職員・児童は88%以上、保護者61.5%であった。読書ノート「みね読書人」の有効活用、巡回図書の有効活用、地域学校園共通の活動を通して、更なる読書習慣の向上を図っていききたい。また、家庭でも読書の機会がつけられるよう、夏休みや冬休みなどに「家読」を奨励していききたい。B6「家庭学習の習慣」は、教職員・保護者・児童90%以上であった。家庭学習については、「家庭学習の手引き」「家庭学習記録カード」を活用したり、「家庭学習がんばり週間」を設定したりしたことで着実に習慣化が図られてきている。引き続き保護者の理解協力を得ながら、家庭学習の習慣が維持継続できるように努めていきたい。

「児童指導」【思いやり】においては、A2「思いやり」A3「きまりやマナー」は、児童・教職員・保護者・地域住民全てで90%以上だった。また、A4「あいさつ」の肯定的割合も、コロナ禍にあって大きな声でのあいさつができない状況であるにもかかわらず、児童・教職員・保護者・地域住民が85%以上という結果だった。「心のこもったあいさつ」を励行し、児童会が主体となってあいさつ運動を行った結果だと考えられる。A14「いじめ対策」、A15「不登校対策」の肯定的割合は児童・教職員・保護者・地域住民全てで90%以上だった。引き続き、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め合う学級経営を行うとともに、いじめは絶対にしていけないことを児童会や保護者と連携して伝えていきたい。A7「夢や目標」の肯定的割合は、児童・教職員が90%以上だったのに対し、保護者は80.6%だった。このような実態を受け、「心豊かで思いやりのある子」を育むために、全教育活動の中に共に学び合う場や自他の良さを認め合う場を意図的に設定し、家庭にも働きかけながら、児童の自己肯定感を高め、望ましい人間関係の醸成に努めていく。また、キャリアパス

ポート等を活用しながらキャリア教育を推進し、進んで働くことの意義を理解したり、行動したりできる児童の育成を目指す。「あいさつ運動」では、児童会を主体としてPTA・地域学校園などと連携して推進し、あいさつを通して周りの人を大切にすることを育成する。「峰小よい子の一日」に即した指導を継続的に行い、ルールやマナーを守る態度を育てることで、周囲を気遣い、社会に貢献する気持ちをもつ児童を育てたい。

「目指す学校の姿」について

本校独自の質問項目B1「児童は「元気・やる気・思いやり」を意識した生活」の肯定的回答は、教職員100%・保護者92.6%・地域100%・児童95.0%となっており、本校の「目指す児童像」を示した合言葉が十分に意識されていることが分かる。

保護者や地域との連携を示す質問項目A21「小中一貫・地域学校園の取組」の肯定的割合は、教職員100%・保護者83.8%・地域100%・児童91.4%、A22「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」とA23「家庭・地域・企業等との連携・協力」は、教職員100%・保護者91.4%・地域100%・児童94.7%であった。また、本校独自の質問項目B4「来なくなる学校づくり」は、教職員100%・保護者85.5%・地域93.8%・児童94.7%であった。これらの結果を見ると、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、行事や活動が制限された中で、工夫しながら実施する方向で教育課程を組んだことから、コロナ禍にあっても、ある程度、学校経営方針の一つである「地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに、地域学校園の教育ビジョンを念頭に置いた教育活動を推進していく」ことができた。このような状況を踏まえて、来年度も、「withコロナ」として、何ができるのか、どのように行うのかを考えながら、教育目標を保護者・地域と共有し、教育課程において児童に育むべき必要な資質・能力を明確にして教育活動を推進していく。その際に、地域協議会や宇都宮大学を窓口地域人材・資源の積極的な活用を図り、地域と連携しながら教育目標の実現を図っていく。また、実施した教育活動については、学校だより・学年だより・各種たより・ホームページで積極的に紹介し、学校教育への理解を深めていくようにする。

A24「安全に配慮した環境づくり」の肯定的回答は、教職員100%・保護者90.6%・地域100%であった。学校の施設・設備に関しては、日常点検と定期的点検を実施し、問題箇所が見つければ、修理や補修及び予防的措置に取り組んできた。また、コロナ禍において、マスクの着用やうがい・手洗いの励行、備品等のこまめな消毒、消毒液の設置、教室等の換気など、新型コロナウイルス感染拡大防止策を継続的に行ってきた。今後も、引き続き、安心安全な環境づくりに努めていく。

教職員のみが回答するA13「特別な支援を必要とする児童生徒への適切な支援」、A16「外国人児童生徒等への適切な支援」、A19「職員全員がチームとなり協力」の肯定的回答が100%、A20「業務の効率化」の肯定的回答が96.3%であった。今後も、教職員が教育に対する高い意識をもち、指導力を互いに生かしながら、協力して組織的に教育活動を推進していくとともに、「働き方改革」を進めながら、業務の改善・効率化を図っていく。

7 学校関係者評価

【目指す児童の姿】について

(1) 健康（保健・食・安全）・体力について【元気】

- ・おおむね達成できている。
- ・寒くても外で元気に遊んでいる児童が多くて嬉しい。
- ・先生方も一緒に校庭に出られているのでありがたい。
- ・コロナ禍で制限のある生活の中でよくやっていると思う。
- ・身体の健康は、引き続き検定カードを上手に活用してほしい。
- ・保健・食育・安全に対して、子ども達の興味関心を引き出す工夫をお願いしたい。
- ・みんな元気で明るいと思う。
- ・学校だより等で児童の元気な姿を拝見することができる。工夫しながら授業や給食指導等が達成されている。
- ・健康・体力は基本的問題であるから、現在実施していることを継続し、チャレンジ精神を醸成していくことが良い。
- ・体育の時間など、児童がとても元気に取り組んでいることが分かる。

(2) 学習指導について【やる気】

- ・児童は進んで学習に取り組んでいる。
- ・小中一貫教育は全体的にプラス評価になっており、これまでの取組が順調に進んでいることがうかがえる。
- ・ITC活用は当然必要なことだが、一方で児童のリアルな体験・経験も大切にしていきたい。
- ・授業参観では、どのクラスの児童も意欲的に授業に向き合っていた。先生方の努力（特に英語）が感じられた。
- ・タブレットでは、低学年でもアルファベット入力できていて頼もしく思った。
- ・先生方はICT機器を活用していて、児童も夢中になっている。自宅でやりすぎて、姿勢が悪くなったり目が悪くなった

りするのではと心配している保護者がいる。

- ・ICT活用が「工場のオンライン見学」等で進んでおり、定着していると感じた。
- ・タブレットが軽いものになるといいと思う。
- ・「家読」は大切だが、新聞で「小学生の睡眠時間がとても少ない」とあり、子ども達の家庭での時間の使い方などが気になっている。
- ・宇都宮の良さ・ICT機器の活用の肯定的回答の増加は、先生方の努力やタブレットをしっかりと活用できている証明となった。
- ・宇都宮学について、郷土の歴史や産業について学ぶことはとても良いと思うので、保護者にももっと理解してもらえるように、授業参観などで実際に見てもらったらどうか。
- ・宇都宮学についての保護者の評価が低いが、毎年少しずつ評価が上がってきている。
- ・宇都宮学では、宇都宮家が百人一首で有名な藤原定家と親交があったことなどを学ばせ、宇都宮は他に比類なき郷土であることを教えて郷土愛を育む。
- ・家での読書・家庭学習が継続されればいいと思う。
- ・授業参観で作品をみたが、児童は自由にのびのびと描いていて素晴らしい。是非、継続を。
- ・授業では、先生の質問に対してかなりの人数が手をあげて答えようとしていてやる気を感じる。

【3】児童指導について【思いやり】

- ・支援が必要な児童は増加しているとのこと。先生方に求められる仕事量は増えていることが想像される。
- ・寺子屋でけんかが始まりそうになると、間に入って止めようとする子が何人もいる。先生方の日頃のご指導のおかげと思っている。
- ・8項目中5項目が減少。若干なので重大ではないものの、対策をしないと不安につながる恐れもある。
- ・峰の子ども達は優しい心をもつ子が多いが、一部の子は大人がいる所でも暴言・暴力を振るう様子もある。そのような児童への心のケアが必要かと思う。何かしらの理由があると思うので。
- ・あいさつは、生活する中で最も大切なことだと思う。学校・家庭だけでなく、地域全体で取り組んでいくことだと思う。
- ・あいさつは、社会生活上一番大切なことである。子どものときから躰として身に付けさせることが肝要である。
- ・「いじめ・不登校」問題は、社会問題として大きく報道され、学校側の責任を論じられている。常日頃から児童の行動を細かく観察し、事故発生の予防・早期発見に努め、発生時には適切な対策を講じられるようマニュアルを考えておく。
- ・登校時など、上級生が下級生の安全に気を付けていることを見かける。良いことと思う。

【目指す学校の姿について】

- ・読書の習慣については、タブレット使用が影響しているのではないかと。タブレットの使用について、はじめをもつ必要がある。
- ・良い方向に進んでいると評価できる。
- ・地域ぐるみで児童を育てる意識を、保護者も地域住民ももっと共有できると良い。
- ・とてもいい学校だと思う。夜遅くまで働いている先生がいるようで心配である。
- ・ほとんどの項目が増加していて、学校長の指導のもと、目指す学校に近づいていることが分かる。
- ・教職員が熱心に取り組んでくれていることが嬉しい。
- ・コロナ禍が長く、保護者に伝わりにくいことが残念だ。
- ・今後とも地域とのかかわりを大切に、子ども達が笑顔で学校生活を送れるよう引き続きお願いしたい。
- ・コロナ禍の中、感染症対策を行い、児童が安全な環境の中で指導を受けることができた結果が出ている。
- ・今後も、職員がゆとりをもった指導ができ、児童の笑顔が沢山見られることを希望する。
- ・授業参観などで先生方の指導を見ていると、とてもよく指導をしていて、学校の取組が分かる。

【その他】

- ・コロナウィルス感染症の影響で、いろいろな困難を抱える家庭の児童が懸念される。教職員の皆様には、そのような児童への一層の配慮をお願いしたい。
- ・他校とのオンライン交流は、コロナになったからこそその取組で、子ども達にとってもいい体験、記憶に残ることになったと感慨深い。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

健康（保健・食・安全）・体力について【元気】

・「健康でたくましい子」の実現活動として、「自己の健康に関心を持ち、進んで運動に親しむ態度の育成」「望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実」に努める。次年度は、今年度の授業実践を基に「体力・保健・食育・安全」の4つの分野を関連させて、児童の関心が高まるように工夫を行いながら授業や保健指導、給食指導に取り組んでいく。特に、教科体育の充実・視力低下防止の指導・食に関する指導・感染症対策の指導については、家庭に情報を発信するとともに地域学校園とも連携を図りながら取り組む。

学習指導について【やる気】

「よく考え進んで学ぶ子」の実現活動として、「基礎・基本の確実な定着」「まとめの学習の充実」「家庭学習の習慣化」に努める。地域学校園統一の「学習のきまり」を活用し、学習習慣の定着を確実に図っていくとともに、教師の英語力やICT活用力などの研修をより一層重ね、分かりやすい授業づくりに努める。タブレット等のICT機器の活用については、授業展開の工夫と個に応じた指導の充実を通して学力の向上を図るが、その際、視力の低下には配慮する。引き続き、各学年の学習内容に準じて宇都宮のよさを実感できるような指導の充実を図り、宇都宮の良さについて家庭でも話し合うきっかけとなるよう、授業の様子を学年だよりなどで伝える。読書については、読書ノート「みね読書人」や巡回図書の有効活用、地域学校園共通の読書活動、さらに家庭と連携した「家読」の工夫等を通して、読書習慣の向上を図っていく。

児童指導について【思いやり】

・「心豊かで思いやりのある子」の実現活動として、「あいさつ運動」の推進に努める。あいさつ運動では、児童会を主体としてPTA・地域学校園などと連携して実施し、あいさつを自発的にできるようにすると共に、心のこもったあいさつを通して周りの人を大切にする態度を育成する。また、「峰小よい子の一日」に即した指導を継続的に行い、ルールやマナーを守る態度を育成するとともに、全教育活動の中に共に学び合う場や自他の良さを認め合う場を意図的に設定し、児童の自己肯定感を高め、望ましい人間関係の醸成に努めていく。

「目指す学校の姿」について

学校関係者皆様のご意見から、本校児童や教職員のことを温かく見守っていただいていることが実感できた。今年度の評価をもとに、児童がより充実した学校生活を送ることができるように、「一人ひとりにとって居がいのある学級づくり」「分かる授業の展開と個に応じた指導の充実」「学習環境の整備・充実」を継続的に実施していく。また、学校の教育活動や児童の様子については、学校公開を行ったり、保護者や地域に適宜発信したり、保護者・地域と課題を共有し役割を分担して対応したりするなど、保護者や地域と連携を図りながら、地域とともにある学校の実現に、より一層努めていきたい。

今年度明確になった成果と課題を踏まえ、「チーム峰」としての組織力を発揮しながら、次年度も学校運営の最重点活動である【峰小 元気・やる気・思いやり活動】を全校体制で推進していく。